

## 令和2年度 第2回ナセ BA 運営協議会議事録

1. 開催日時 令和3年1月25日(月) 午後3時～午後5時

2. 開催場所 ナセ BA 体験学習室

3. 出席者

(委員)

我妻 仁(我妻社会保険労務士事務所・協議会会長)

北口 己津子(米沢女子短期大学・協議会副会長)

太田 和広(小学校校長(関根小学校))

平塚 志信(高等学校長(米沢東高等学校))

渡部 純子(塩井コミュニティーセンター)

佐藤 繁(米沢市芸術文化協会)

田中 明子(米沢商工会議所)

白田 静雄(地元商店街)

小嶋 千夏(主婦)

(事務局)

公益財団法人米沢上杉文化振興財団

種村信次(理事長)、岸順一(副理事長兼図書館長)、青木昭博(副館長)、石黒志保(郷土資料担当)、遠藤朋香(図書業務担当)、齊藤かおり(図書業務担当)、福石敏史(図書業務担当)、川橋勇人(総務企画担当)

4. 開会(事務局)

5. あいさつ(理事長)

皆様には新年のお忙しい中お集まりいただき感謝している。昨年を振り返ると、コロナ禍の影響を大きく受けた一年であった。当館の運営でも、コロナ対策が中心となっており、様々な制限をかけつつ、感染防止のための工夫を職員全体で行った。コロナ禍は来館者数にも影響を及ぼしているが、一方で貸出数は大きな減少となっておらず、利用者の皆様には多くの本を借りていただいているのではと考えている。

今回、新たな事業計画について報告するが、それもどのような形で実施できるかは未知数である。

皆様のご協力を頂きながら、よりよいサービスができるよう、努力していきたい。

6. 館長あいさつ

日頃よりご支援感謝申し上げます。今年度はコロナに始まりコロナに終わるといふ異常事態の中で、利用者の安心・安全を守りつつ、図書館サービスの質を落とさないことを目指して運営してきた。座席や

資料の除菌のほか、席数を減らした閲覧席についてはカード交付による受付を行うなど、公平な運営となるよう心掛けている。

今回、コロナ禍の中で人と接する形式の事業があまり行えなかったが、その中でも定員の縮小や会場の変更など、可能な限り工夫を行いつつ実施している。また、この機会を活かし、書架の清掃など、読書環境の整備も行った。前回の協議会でのご提言についてはコロナ禍の中でなかなか十分な対応を行えなかったが、今回はこれまでの経過の説明、並びに今後の展望についてご説明したい。

理事長の内容を補足すると、来館者減少に対して貸出数が維持できているということから、図書を借りることを目的に来館する方は継続して来ていただいているか、もしくは一人当たりの貸出数が増加しているのではないかと考えている。学習室については、現在入れ替え制を行っていることもあり利用数が減少した。市民ギャラリーについても展示の中止などがあり利用が落ち込んでいる。来館者数は昨年度は大きく増加傾向にあったところ、コロナ禍の影響で一転減少した。皆様からアイデアを頂きつつ、利用者の皆様の安心・安全を第一に考えながらも利用者増に向け努力したい。

## (1). 議事

### 報告

#### ① 令和2年度公益財団法人米沢上杉文化振興財団運営自己評価について(報告)

#### ② 令和3年度市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリーの主な事業について(報告)

(委員) 家読(うちどく)スタンプラリーが11月1日より実施となることには理由があるか。

(事務局) 小学校図書館部会との連携ということを踏まえ、先生方が動きやすく準備可能な期間を想定している。また、当館事業の読書週間図書館フェアの開催期間であること、冬季期間の利用促進を目的としていることも理由となる。

(委員) 事業を見ると、図書事業については子ども対象のものが中心となっているように見える。対象を広げてはどうか。

(事務局) 大人対象の事業の実施については、今後も念頭に置きつつ運営していきたいと考えている。現状、読書会や読書週間図書館フェア、郷土資料関連の講座については一般も対象としている。

#### ③ 市立米沢図書館アンケートについて(報告)

(委員) レファレンスについて、利用目的としての割合は少ないものの、内容については高い評価を受けている。具体的にどのような内容のことを行っているか。

(事務局) 希望内容に合わせた資料の選定などの一般的なレファレンスと、上杉家の歴史や先祖調べといった郷土資料関連のレファレンスに大別される。利用者については、一般的なレファレンスをレファレンスとして捉えていない可能性があり、そのことがアンケートの結果に表れているとも考えられる。

(委員) レファレンスという語は専門用語的であるため、市立米沢図書館の方でレファレンスというものを再定義のうえ、より分かりやすい形にアイコン化して館内に掲示、あるいは職員ネームなどに貼付するなどの工夫を行ってはどうか。レファレンスについて知られていない現状は勿

体ないと感じる。レファレンス内容をデータベース化し、回答事例を提示してはどうか。国立レファレンス協同データベースへの登録についても考えているか。

(事務局) データベース化等については現在検討中。

(委員) レファレンスについては業務内容の可視化も重要であると感じる。どのようなことを調べるのに活用できるかについても、提示の必要があると思う。

(委員) アンケートの集計結果については一般公開を行っているか。

(事務局) すべての利用者に対して広くアンケートをとったものでなく、要望のある方に提出いただいたものなので、具体的な要望の運営改善のために利用している。公開する場合広く利用者へお願いする形でのアンケートを取る必要があると考えている。

(委員) アンケートに記入した要望への対応が公に分かるようになれば、利用者もアンケートをより積極的に提出してもらえないか。

(委員) まだ歩けないような乳幼児を連れて来館する際、天候が悪いとまちなか駐車場から向かうのが困難である。小さいお子さん連れの利用者には、館内北側駐車場を開放してはどうか。

(事務局) 北側駐車場については、駐車台数が少ないこともあり、現在はお体の不自由な方、又は高齢者を対象に利用いただいている。対象の拡大については市に相談したい。

#### ④ 図書館サービス向上、利用者増に向けたアイデアについて

(委員) 別紙項目6について、商工会議所においても情報発信の更なる拡大の必要性が指摘されている。ナセBA内に商工会議所・市の情報発信コーナーを設置頂くなど、互いに情報発信を行う体制が取れればと思う。先日、「週刊文春」において上杉鷹山による疫病対策の記事が掲載されたが、このようなことについても、コラムなどの形式でHP上にて紹介が行えるといいと思う。項目2については、商工会議所関連事業所を対象にアンケートを行えば、ビジネス関係者の利用者増に向けた対策が取れるのではないか。体験学習室でのセミナー実施などが可能であれば、図書館の利用を促すことにもなると思う。

(事務局) 体験学習室については、一般の方を対象に貸室を行っているのでぜひ活用してほしい。鷹山による対策事例については、近日行われる古文書解読講座でも紹介を行う予定。

(委員) 項目5について、面白いアイデアだと思うので協力していきたい。現在はコロナ禍もあり難しいが、高齢者施設ではこうしたボランティアを広く求めているところである。項目9について、今までの事例としてはナセBAを中心としたランチマップのスタンプラリーを実施している。中心市街地では今後、雪灯籠祭りに合わせたスタンプラリーを2月に実施する予定であるが、これにナセBAも利用できる形にできればと思う。

(委員) 人を集めて行う事業を実施することは現在難しい状況だが、逆に高齢者など、図書館に来られない方へのアプローチを大切にする機会であるともいえる。ステイホーム環境における家読の推進・提案のほか、オンライン上での取り組みについても検討してほしい。

また、提案として、以前山形県立図書館、山形大学、山形新聞社がSDGsに関する取り組みを行っている事例があるが、市立米沢図書館での実施も検討してほしい。SDGsにおける17目標の中で、目標3「すべての人に健康と福祉を」はアタゴオルや学童との連携の実施など、図書館の取り組みはSDGsの目標項目に当てはめることができるものが多い。今後休館日の

増加などがあれば、目標8「働きがいも経済成長も」における職場環境の改善事例とすることもできる。アンケートについては、デジタルによる集計だと集計も楽になると思うので、検討をお願いしたい。

(事務局) 利用者の安全確保のための施設点検・整備を目的とする、また、図書館サービス向上に向けた休館日のあり方については、市と協議している。SDGsについては、昨年当館で特集を行った。今後、目標項目ごとの本の紹介など、図書館運営に反映させたい。

(委員) 巣ごもり需要が高まっている現状は、図書館利用拡大のチャンスであるとも言える。市民ギャラリーの展示については、コロナ禍の影響であきらめた方も多かった。ギャラリー展示に期待している市民も多く、今後対策を行いつつ活用を増やしていければと思う。これまでの展示では、図書館の帰りにギャラリーを見に来てくださる方も多く、こうした関係性は利用促進上のチャンスと言える。図書館とギャラリーが併設される東根市のまなびあテラスでは、ギャラリーに芸術関連本の展示コーナーが設置されるなどの事例もあり、参考にしてほしい。

小学校では、児童一人一人にタブレット端末の配布を行う構想が開始され、オンライン化が進んでいる。パソコン等を用いての社会とのかかわりが促進されていく現状に併せ、項目8、11などのデジタル面での改善について検討することも重要と感じる。YouTubeによるよみきかせの配信をしている方もいるようだが、同様の活動を併せて検討してほしい。

(委員) 自動車文庫車のアタゴオルについて、巡回地であるコミュニティセンターでは「自動車文庫車」という単語にピンとこない利用者が多く、「移動図書館」であることを説明してようやく理解いただける状況。歴史ある名称であるとは思いますが、知名度向上のため今の人でも分かりやすい通称を付けてはどうか。また、アタゴオルに配備されている本についてもノンフィクション関連だと情報が古いものも多く、更新をお願いしたい。小学生向けの本についても中・高学年向けのものが少なく、対象年代について気になるところがある。一方、本館の所蔵においては高学年向けの児童書が豊富であると思う。よみきかせ(図書館では「おはなしかい」を実施)と聞くと絵本を連想する利用者も多いため、このことを知らない方も多いのではないかと。高学年向け児童書をよりアピールしてみてもどうか。

また、読みたい本があるとき、米沢市民は自分で買ってしまいう人が多い傾向がみられる。書店に売っていない資料を所蔵している、ということも図書館のPRになるのではないかと思う。蔵書に関しては、18歳以上の選挙権を持った世代向けの資料が不足しているように感じられるため強化をお願いしたい。また、現在放送されているドラマ等の舞台、背景などに関連した本についても需要が多く、配備してもらえればと思う。

PRに関しては、先ほどの商工会議所の情報発信に関連して、歴史ある事業所をPRする企画を行えば、より様々な方へ来館いただけるのではないかと思う。1Fのブックカフェを再度オープンしてもらうことなども検討してほしい。

(委員) ナセ BA 来館者へのアンケート実施や学習中の相談など、高校生の探究型学習への協力を今後お願いしたい。今回の米沢工業高校による消毒液用スタンドの制作・寄贈なども、探究型学習の一環と言えると思う。また、現在はコロナ対応などもあり難しいとは思いますが、カウンターや本の清掃、データ入力など、内容は問わないので高校生ボランティアの受け入れを実施してほしい。大学入試においても主体性の評価が重視されている状況もあり、ボランティアに積

極的に取り組みたい学生に対応いただけるとありがたい。

項目10について、米沢東高校で実施されたビブリオバトルでは生徒のほかに大人の方の応募もあり、同世代とは異なる視点での書籍紹介を聞くこととなり、生徒にとって得るものが大きかったと思う。図書館で行う際には、ぜひ市内校と連携して行ってもらいたい。

自動車文庫アタゴオル（号）にもイラストが使われているますむらひろし氏作のアタゴオルシリーズについては、子どもの自然への感性を豊かにする素晴らしい作品だと思う。紹介コーナーの設置や、将来的には原画の購入・寄贈などについて検討してもらいたい。

（事務所）ますむらひろし氏の著作紹介コーナーについては、既に図書館内に設けている。

（委員）項目3について、現在行っているスタンプラリーをはじめ、小学校と歩調を同じくして家読の推進を行ってもらえればと思う。子ども、保護者、教師それぞれの家読事業に対する評価をみると、子どもが比較的高い評価をしているのに対し、保護者からの評価は厳しく、まだ子どもの読書像が保護者の求めるものには至っていないと考えられているようであるため、改善に向け進めていきたい。

（委員）米沢女子短期大学の学生について、卒論のため、学生によるアンケート実施の必要が生じた場合にはぜひ協力をお願いしたい。項目5については、よみきかせ活動のボランティアを希望する学生も多いため、実施の場合には参加させてもらいたい。

市立米沢図書館については、先人顕彰コーナーの展示内容にみられるように、歴史ある貴重書を保管・活用している点も誇るべきところであると思う。こうした資料について、有事の際の避難計画などもあるとなお良いと思う。

小学校とナセ BA とで連携して行われる読書推進活動については、小学校側の人手が不足している状況にあるため、活用面でのテーマに則した新規資料の提供を継続して行うなど、図書館側からの協力を行っていくことが必要であると思う。

（委員）先ほども話題に挙げたが、図書館の蔵書の中では法律経済関連のノンフィクション、専門書については情報の更新が早く、予算の面からも整備が難しい状況にあると思われる。こうした資料については、自分で購入しても1・2回読んだだけで済ませる方が多いため、そうした方を対象に図書館で必要な本の寄贈のお願いについて呼びかけを行うとよいのではないか。

（事務局）限られた人員で図書館事業を拡大するためにはスクラップアンドビルドが必要と考えている。今後ご意見を参考に工夫を行いつつ、実現可能なものを進めていきたいと思う。委員の皆様にも、ぜひ協力をお願いしたい。貴重なご意見に深く感謝したい。

## 10. 閉会（事務局）